

## 垣生地区タウンミーティング（要約）

テーマ：垣生地区のまちづくりについて

令和元年11月26日（火曜日）

【市長】 皆さん、こんばんは。今日は火曜日の夜で、何かと忙しかったのではないかと思います。垣生地区タウンミーティングの開催に当たり、垣生地区まちづくり協議会の会長さんをはじめ、役員の皆さんのご協力をいただきました。誠にありがとうございました。さて、松山市のタウンミーティングですが、私が市長に就任させていただいた当初から始めています。市役所で待っていたら楽ですけど、果たしてそれでいいんでしょうか。松山市内は、旧北条市、旧中島町を合わせて41区に分かれますけれども、それぞれ地区ごとに課題がありますし、逆に魅力もあります。それぞれの地域に出かけて行き声を聞かせていただこうと、タウンミーティングを始めました。おかげさまで好評になり、41地区を1期目の4年間で2巡りさせていただき、2期目からは新たな視点ということで、高校生や専門学校生、大学生の若者世代の方々、また人生の先輩方や子育て世代の方々に集まっていただく世代別のタウンミーティングや、農業分野の方々、商店街の方々に集まっていただく職業別のタウンミーティングを始めました。おかげさまで3期目に入らせていただき、今日で117回目のタウンミーティングになります。これまで「市の取り組みが分かって良かった」という声を多く頂いていますので、3期目からは新たに広報タイムを設け、現場で汗を流している職員が皆さんに知っていただきたい事柄を紹介しています。松山市のタウンミーティングは、皆さんの質問に対して、できるだけこの場でお答えをいたします。中には、国や県と関係をする案件、また財政的によく考えなければならぬものについては、いいかげんな返事をして帰るわけにはいけませんから、いったん持ち帰らせていただいて1カ月をめぐりに必ず返事をする、やりっぱなしにしない、聞きっぱなしにしないというタウンミーティングです。今日も皆さんからのご意見を頂き、できることから市政に反映をしていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

【男性】 個人としてではなく、まちづくり協議会としての提案を1項目に絞ってお話をさせていただいたらと思います。公民館本館の建て替えに伴う複合施設の建設という案件です。この公民館は3階建てですけども、エレベーターがないということで、お年寄りや足腰の悪い方が3階まで上がるのに大変な思いをしています。それから、トイレ入り口が男女兼用なんです。非常に入りにくくて、若い女性は非常に困っているという状況です。それから、駐車場がないに等しいなど、本館はいろいろな問題点がありまして、少しでも早く改善なり、建て替えをしてほしいというのが地域住民の願いです。どのようにしたら建て替えができるか、いろいろ検討しています。公民館が建設されたのが昭和58年で、建設してから35、6年経ち、鉄筋、鉄骨造りというのはだいたい

耐用年数が50年ということで、その耐用年数に伴う建て替えを待っていると、まだまだ先のことになるということで、何かいい案はないか、他の施設、例えば支所とか、児童館とか防災センターとか学校施設とかの複合施設として建設要望すれば少しでも早く建て替えができるのではないかとことや、将来の垣生の地域の人々のためにどのような形の施設がいいのか、現在、役員で協議を進めているところです。いずれ方向が決まりましたら、市長に文書を出させていただくようになると思いますので、その時はどうぞよろしく願いいたします。現在は、方向が定まっていませんので、協議中ということで、そういうことが進んでいることを今日は市長に知ってもらったらと思って発言した次第です。

【市長】 私から松山市全体の公民館についてお話させていただいて、垣生公民館の取組は生涯学習政策課から補足でお話しします。皆さんご存じのように、松山市は41地区に分かれていて、その地区ごとに公民館本館があります。公民館分館はいわゆる集会所というような言い方になりますけれども、それが松山市にだいたい300ほどあります。公民館本館は市で保有しているものですが、41地区の公民館の中に耐震化がまだできていないところがあります。皆さんが集まる公民館が耐震化されてないということではいけませんから、残り一つの番町公民館の工事にはだいたい入れるようになってきたので、それが終わってから次の段階に入らせていただこうと思っています。私も垣生公民館に何度か来ているので、トイレが男女共用であるのは存じています。松山市全体を洗い出して、日浦公民館と垣生公民館は男女別化できるスペースもあるということで、垣生公民館のトイレは現在、男女別化の工事に取りかかるための準備をしています。併せて、和式だと足が痛い方もいらっしゃいますので、現在の和式のトイレを洋式のトイレに取り替えて、さらにトイレ内のバリアフリー化をする予定で、今年度の3月ごろの完成を目指して進めています。使いやすくなると思いますので、もうしばらくお待ちいただけたらと思います。

【生涯学習政策課長】 現在、市内公民館の劣化状況を見て、公民館全体の整備計画を策定中で、その後、順番に大規模改修をしていく予定となっています。垣生公民館は昭和58年に建設されて、劣化は見られますが、必要な修繕を行いながら施設の維持管理に努めていますので、現時点では建て替えの予定はありません。今後、大規模改修を行う際には、障がい者の方や高齢者の方が利用しやすい施設整備はもちろんのこと、避難所に必要な機能を併せ持つなど、地域の皆さんのお声を聞きながら検討していきたいと思っています。

【市長】 皆さんの意見を基に判断させていただきますし、何を言ったらいけないということはないので、遠慮なく言っていただけたらと思います。市長をさせていただいて9年ですけれども、松山市は北海道の夕張市みたいに、たちまち経営破綻をするようなことはなく、中四国の中でも健全財政ではあります。でも、油断はできないという状況です。我々の代でいっぱいお金を使ってしまっただけで、子や孫の代に何も残ってなかったと

ということではいけませんので、皆さんのお声を聞きながら、バランスを見てやっているところです。昭和50年代ぐらいは日本の経済状況が非常によかった時代で、施設をたくさん建てた時代です。そういうものが40年とか50年くらいたって、今だいぶ古くなっている状態です。これから人口が減少していくと言われてはいますが、公共施設をどれだけ次の世代に引き継ぐのかというのをよく考えないといけません。建てたときのコストをイニシャルコストといいます。ずっと維持管理のお金、ランニングコストは誰が負担するかというと、次の世代が負担するわけです。ですから物を建てる時にはよく考えなくてはいけないということで、いろいろと考えながらやっているところですので、ご理解いただいたらと思います。

**【女性】** 現在、2児の母で、子どもがまだ小学生になっていませんけれど、子育て真っ最中です。先ほど、まちづくり協議会の方からご意見があったと思いますけれど、垣生地区に住んでいると、児童館とか子育て支援のスペースが遠いなと思います。垣生小学校の児童数が年々増加しているのも知って、児童館という大型施設じゃなくてもいいので、子どもが自分から足を運べるスペースがほしいなと思っています。ご検討、よろしくをお願いします。

**【保健福祉政策課長】** 松山市の児童館は、中央児童センターをはじめ、現在、松山市内8カ所に児童センターや児童館があります。この児童館は、地区ごとに設置するのではなく、人口など各地域のバランスを考慮しながら施設を設け、近隣地区をカバーする形で整備しています。大変申し訳ないですけれども、垣生地区の皆さんには、味生児童館や南部児童センターをご利用いただいたらと思います。

**【市長】** よい返事ができなくて申し訳なく思います。私が就任したときは松山市の児童館・児童センターは合計7カ所でした。旧北条市には児童館・児童センターがありませんでした。堀江地区のタウンミーティングで小学生から「児童館をつくってもらえませんか」という話がありました。北条は7地区に分かれますけれども、各所で北条のお父さん、お母さん、子どもさんからも「児童館・児童センターをつくってもらえないですか」という話がありました。結局、北条文化の森に公共施設があり、空間的にゆとりがあったので、そこを改修する形で、北条に8カ所目となる児童センターをつくることができました。距離を調べて見ると、堀江小学校から北条文化の森は6.6キロあります。立岩小学校から北条文化の森までが5.4キロあります。垣生小学校と味生児童館の間は直線距離で3.8キロ、いずれも直線距離ですけれども、比較的近いので、申し訳ないですけれども、味生の児童館や最寄りのところをご利用いただければと思います。でも、垣生は児童数が増えているのはよく認識しており、声としてよく分かります。また、限られた財源の中で、中学卒業まで子どもの通院費・入院費にしても無料というのを私の3期目の公約に書かせていただいて、来年の1月からできるようになりました。365日24時間の小児救急医療体制というのも全国でも珍しいですし、病児・病後児

保育施設の充実とか、子ども関連施設へのAEDの手厚い設置ですとか、子育て相談支援体制というのも全国でもあまり例がない取組もしています。児童館はなかなか難しいですけども、他の分野ではしっかり子育て支援をしていきます。

【男性】 重信川河川敷の遊歩道化、サイクリングロード化、老若男女のふれあい公園化による地域の活性化ということについてお話します。今、日本の人口構成は、ニュースによると、65歳以上の高齢者は総人口の28%超、75歳以上は15%近くと、急速に高齢化が進行しています。さらに2040年には、65歳以上が35%超を占めるという推計もあります。平均寿命が、男81歳、女87歳と世界でも2位、3位の長寿社会ですが、健康寿命は約10年短いと言われていています。将来の社会保障費用を抑えて、現役世代の負担を減らすべきと考えますと、健康寿命をいかにして伸ばすかということが我々国民一人ひとりに課せられた大きな課題であると考えています。この寝たきりとなる原因の多くは、転倒とかつまづきによる骨折であると言われていて、これを防止するためには、あることが重要と言われます。散歩などを実践している高齢者もいますが、地域を振り返ってみますと、歩道の付いた道路がとても少なく、海岸沿いには工場地域があるために、生活道路も車の交通量がとても多くて、ウォーキングが常に危険を伴っているというのが実情です。かつては歩きやすかった、垣生から余土に通じる農道がいろいろありましたが、西部循環線の完成により、道路が寸断されて非常に歩きにくくなっています。松山市の南西部は、東垣生に空港の所有地を活用した公園はありますが、そこを除けば垣生も余土も南吉田も公園が少なく運動する場所が少ない地域となっています。一方で、垣生から余土までの重信川右岸の河川敷は農地として耕作されています。しかし、近年の大雨により、堤防決壊、氾濫の危険がここ数年頻発しています。幸い氾濫には至りませんでした。一昨年9月の台風18号のときは、堤防からの漏水と護岸の崩壊が10カ所以上で発生しました。学識経験者などを交えた河川事務所の堤防調査の結果、堤防の水の浸透防止能力が脆弱(ぜいじゃく)であると判明し、漏水対策工事が必要と分かっています。後で資料をお渡しします。農協のところから下の方は借り上げて、畑を全部透水工事するという話がありました。そこを借り上げて公園化してほしいのと、そして誰でも歩けるウォーキング用の広場、子どもが遊べる広場、そういったものにしてほしいというのが私の提案です。

【都市・交通計画課長】 河口付近は、鳥も飛んでいて、すごく景色もきれいなところだと思います。自治体と河川管理者である国土交通省、そして民間の事業者、地域の皆さんと連携して、水辺を活用した地域のにぎわい創出を目指す「かわまちづくり」という制度があります。重信川につきましては、重信川周辺の松山市・東温市・松前町・砥部町の2市2町が連携して、国土交通省にかわまちづくりの計画の登録を申請させていただいて、今年3月に登録されました。松山市としては今後も引き続きこのかわまちづくり計画の実現を目指して、国土交通省をはじめ関係機関と連携を図りながら、整備に協

力していきたいと思います。具体的に重信川周辺の良好なまちづくりを行うために、ウォーキングの通路、歩行者道の整備、自転車も想定されますので、ベンチやサイクリングスタンドの設置などを今後検討していきたいと思います。

【市長】 思いは一緒だということです。国交省や周辺の市町で一緒になっていい計画を立てていきたいと思いますというところです。松山市は代表的な例が、花園町通りですが、人が歩きやすく、自転車とぶつからないようにということで整備させていただいて、全国街路事業コンクールで、国土交通大臣賞最高位を頂きました。松山市としてもできるだけ人が歩きやすく自転車と交錯しないようなまちづくりをこれからも進めていきたいと思っています。国が管理しているのを一級河川とって、重信川は日本で唯一、人の名前が入った一級河川です。足立重信さんですね。二級河川は、県の管理で洗地川などが二級河川になります。私は石手川・重信川の治水の会の代表補佐をさせてもらっていますので、毎年、国交省にはしっかりと堤防を整備してくださいと言いつけていますので、こちらもしっかりやっていきたいなと思っています。

【男性】 僕は生徒会役員ですけれども、生徒会の活動であまり目立った活動ができてなくて、今、それを検討しています。朝の20分、週1回ぐらいで地域に貢献できるボランティアの例とか、何かそういうご意見をいただけたらと思います。

【市長】 これはすごくいい意見だと思います。ぜひ地域の皆さん、言ってあげてほしいです。中学生が「何か僕らで、地区でできるボランティアないですか」ということを言われたので、人生の先輩が「町ではこういうこと困るとるけん、こういうこと中学生がしてくれたら助かるんよ」と意見交換いただけるといいと思います。

【男性】 今、まちづくり協議会では「花いっぱい垣生のまちづくり」という事業を進めているところです。現状としては全戸に呼び掛けるチラシ等も配布したのですが、なかなかそれに参加していただける方が少ないということで、実は、小・中学校に呼び掛けるのもいいかなという話が出ていました。具体的に事業があれば、一緒になって「花いっぱい垣生のまちづくり」に参加していただけたらと思います。それと、すでに垣生小・中学校、今出ヶ浜潮騒を守る会でのボランティア清掃を年2回、600人近い参加があり、小・中学生が約半数います。中学校などで相談して清掃活動日を設けています。今後、まち協としても、若い方、次代を担う方へのご協力を願うような形をとっていききたいと思いますので、よろしくをお願いします。

【市長】 本当にいい意見交換だったと思います。こういう中学生と人生の先輩が直接意見交換する場所ってなかなかないんじゃないかと思います。今、花のまちづくりのことが出ましたけれど、実は花のまちづくりは良くて、花が嫌いだっていう人あんまりいないですね。比較的、花は軽いので高齢化しても取り組みやすいです。私は前の仕事でアナウンサーを20年させていただきましてけれど、各地の良いまちづくりを見せていただいたのが財産になっています。宇和島市三間町には、チューリップが沿道にずら

っと植えられたところがあり、咲くころになると、そこに人が集うんです。花を生かしたまちづくりはいいと思います。これだけ先輩がいる中で立ち上がって発言してくれて、またそういうことが実れば、嬉しいなと思いますし、地域でいいなって思いをした子は、絶対大きくなってそれを忘れないですから、本当に良い意見交換をしていただいたと思います。ありがとうございました。

【男性】 松山空港周辺で市が買い上げた旧騒音対策第二種区域の農地等の今後の活用についてお伺いしたいと思います。2年ほど前、垣生小学校の給食センターが老朽化したので急きょどこかに給食センターをつくらないといけないという話が出たときに、地域住民に説明がなく候補地が決まって、1年ぐらい議論した結果、最終的には候補地を変えて、給食センターをつくる方向で進行しています。これは非常に結構なことです。現在、約5万㎡近くある敷地を松山市として今後どのように活用されるのか、その考え方をお聞きしたいと思います。

【都市・交通計画課長】 愛媛県の松山空港地域活性化事業実施計画というのがあり、いわゆる騒音第二種区域は、その計画の中で、スポーツ施設、文化施設などの整備を進め、重信川のリバーフロント空間と連携した広域のレクリエーションの拠点として位置付けています。平成初期の計画ですが、今も変わっていません。ただ給食センターに関しては、そこが適地ということで、令和4年4月を稼働目標として進めています。そのほかの地域の活用は、県の計画を基に検討していきたいと思います。

#### 広報タイム「3010運動と食品ロス削減のすすめ」

【男性】 現在、地区の環境保全に関していろいろと考えています。一つはこの数カ月間に、実は廃棄物処理の問題で松山市のご指導を仰ぎながら、廃棄物処理の会社とこれから先ちゃんと地元の企業としてやっていこうよという話が進みました。ただ、我々から見れば決してあそこの会社だけの問題ではありません。海岸地区はかつて非常にきれいな海岸でした。今は貯木場があり、いわゆる工業団地的な形になっています。この工業団地の中にある内海（貯木場）の辺りがきれいな水ではなく、外周の道路も結構ごみがいっぱいあるんです。町内であれば、それぞれの家庭がきれいに掃除をしていただけますが、工業地ですので、道路にどろどろごみが落ちたままになります。この辺の企業さんの指導も松山市でやっていただけたらなと思います。我々が言っても「はい」ということにはなるんですが、実際のところは随分水の所にごみがいっぱいたまっていたり、貯木場でもありましたので、木のくずがいっぱいあり、臭いにおいとなっています。この辺も含めてあの地区をもっときれいにできないだろうかと思えます。また、これは簡単にできることではないですが、あの辺りを含めて子どもから大人までゆったり遊べるような地域になればありがたいなと思います。公園とかそういうのも含めて、一度計

画の中でテーブルにあげていただければありがたいと思っています。もう一つ、南海トラフとか地震があったときに、実はあそこから水が上がってくると、西垣生地区はかなり浸水します。その辺の対策に対して、もうちょっと詳しく地元へ広報していただければ、準備もできるのではないかと考えています。

**【環境モデル推進都市課長】** まず、一点目の今出地区の港と幹線道路を結ぶ道にごみがあるということですが、ここは松山市が委託を受けて維持管理している道路です。こういう臨港道路にごみが散乱している場合は、松山市港務所にご連絡をいただければ対応をさせていただきたいといます。二点目についてですが、これまでも垣生地区環境保全対策協議会の皆さんといろいろと情報交換をさせていただいて、新しい焼却施設等ができるときに、安全管理とか管理指導、大気の監視などについて、事業者にしっかりと指導していきますとともに、我々自身もしっかりと監視をして、その情報を適宜、住民の皆さんにお伝えをしたいと考えています。環境モデル都市推進課では、自然環境という分野の仕事もしています。生物が住み続けやすい地区であることを市民の皆さんに知らせて、自然の大切さについて共有していく取り組みの中で、垣生地区の希少動植物等の自然が残されている姿も伝えていきたいと思っています。最後に、例えば公園の整備など、今後、ご要望をいただくことになるといいますけれども、しっかりと向き合わせていただいて、協議をさせていただいたらと思っていますので、引き続きよろしくお願いたします。

**【市長】** 内港のことはどうでしょう。

**【環境モデル都市推進課】** 内港を管理している愛媛県にヘドロの対応について、確認したところ、今から申し上げる回答がありました。「愛媛県の管理する施設における堆積土砂の撤去については、点検等により船舶の航行、あるいは係留に支障が認められた箇所について、緊急性、施工性および周辺状況を総合的に判断して、順次、施工している状況です。当該箇所は、それらを考え合わせた場合、現時点では対策を行う予定はなく、現地状況を見極めながら必要性が認められた場合は検討したい」という回答でしたので、ご理解をお願いします。

**【市長】** 垣生地区の浸水の広報について、どうでしょうか。

**【危機管理課長】** 津波のことでしたけれども、松山市の場合は、津波の高さは大潮の一番高いときで、3.8mとされています。例えばここら辺で、津波が3.8m上がってくるんじゃないかという意識だと思いますが、実はそのときの海面から、最高で2m上がるのが、大体地震発生から3時間後とされています。松山の場合は、3時間という時間的にも余裕がありますけれども、これが高知県の黒潮町だと大体、国内最悪の数字で、34.4mの津波が来ると言われていて、海面から1mほど上がる第一波というのが8分くらいで来ます。また、室戸あたりでは、3分くらいで3mほどの津波が来ることになっています。一般的には2mの津波が来るといって、怖い意識があると思いますが、基本的にはそのときの海面から2m上がると考えてください。皆さんの

ご家庭にもお配りした防災マップには垣生地区の浸水想定区域を示した地図があります。これは先ほど言いました最悪の場合の標高でいった場合に、3.8mまで浸水しますと示していますので、時間的にはまだ余裕があるかと思えます。時間的な余裕があるからといって安心するのではなく、早め早めに浸水想定区域の外にできるだけ遠くの高いところに避難していただくことをお願いしたいと思います。

【男性】 内水広報ということがありましたので、お願いしたいと思います。津波ももちろんですけども、最近、異常気象で大雨洪水、氾濫、西日本豪雨がありますし、そういった洪水に対する避難場所が垣生地区には今のところないです。だから、我々は5段階の警戒レベルで2や3になって逃げる場所がありません。垣生山に逃げるとかなり時間がかかりますし、高齢者が逃げるわけにはいきませんので、早く垣生地区の中に指定の洪水避難所の設置をお願いしたいと思います。広報についての防災行政無線が五つ垣生地区にありますが、五つではとてもじゃないですが聞こえませんが、防災行政無線の増設と、屋内の防災受信機が小学校や中学校には一部あると聞いていますけれども、戸別の受信機を防災リーダーなり、地区のリーダーにいくつか配布していただいて、正確な情報を迅速に伝えられるようなシステムの構築をお願いします。

【危機管理課長】 まず、避難場所については、台風19号のこともありますので、ご不安なことだと思います。結論から言いますと、状況によって変わってくると思いますが、小学校や中学校の2階や3階以上を緊急避難場所にすることは避難が遅れた方の命を守るためには非常に有効なことだと思っていますので、避難場所として開設していく方向で調整していきたいと思っています。

【市長】 防災行政無線については、これまでのタウンミーティングでもよく出ているんですけども、今の家はペアガラスになっていて聞こえにくいとか、大雨や風が強くて聞こえにくいということがありますけれども、例えば一つの方法として、各ご家庭に防災行政無線を受ける子機を配置するとなると、ものすごいお金になります。今、皆さんの行動を調べると、やはりテレビを見ている方が多いです。NHKや民放にご協力をいただいて、表示ができるようになっていきますので、それを大いに活用していただきたいと思っています。それから、私どもが交流している東京都狛江市さんから勉強させていただいたのですが、広報まつやまの下に、防災行政無線の内容が確認できる電話番号を常にかかっています。松山・北条エリアはこの番号で、中島地域はこの番号でかかっていますので、防災行政無線が聞こえにくかったなと思ったら、この番号に電話していただいたら同じ内容が聞けます。防災行政無線を全てのご家庭に配備していたら、ものすごいお金がかかります。電池が入ってなかった、コンセントが入ってなかったら聞こえません。リーダーさんに配備していたら、リーダーさんが伝えないといけないという責任も問われますので、今あるものをどう活用するか、テレビをどう活用する、ラジオをどう活用する、また、電話回線を活用するといった形で補完していければと思っています。



すので、ご理解ご協力をお願いします。

【女性】 先ほどの津波の件の補足ですけれども、西垣生地区、特に今出あたりは液状化現象が起こる可能性が高いと思うんです。そのことについては、何か対策とか考えられていますでしょうか。

【危機管理課長】 液状化については、防災マップにも載せています。液状化の心配もあると思います。ただ、地震が起きたときには、この地域では震度7というのが想定されていますから、まずは自分の身を守って、その後、安全なところに避難していただいたらと思いますので、よろしくをお願いします。

【市長】 私から補足させていただいたらと思います。平成22年12月に市長に就任をさせていただいて、4カ月後に東日本大震災がありました。当時は、いざという災害のときは、松山市本町6丁目の消防の庁舎に本部をつくって、そこに参集する形になっていたんですけれども、それでは間に合わないだろうということになりました。松山市役所は他のオフィスビルに会議室を借りているくらい、スペースがないんですけれども、何かあると、すぐに集まれるように、松山市役所本館の5階に常に災害対策本部の場所をつくっています。それに今、危機管理課の職員の多くは消防職員です。命の現場で、消防救急で、どうやったら皆さんの命を守れるんだろうという仕事をしてきた職員が、危機管理課に集まって、膨大なデータと闘い、連絡を取り合いながら、皆さんの命を守る活動をしています。今、松山市の総合防災訓練で、お手間ですけれども皆さんに防災マップを持ってきてくださいと言っているんです。それは、防災マップを持ってきていただけたら、どこに自分の家があるのかが分かるし、防災訓練をしている中で、見ていただけます。これは東日本大震災のあと、改訂版も出していますが、我々だけでつくっているんじゃないんです。愛媛大学の防災情報研究センターの専門家たちと一緒にやってつくっているんです。浸水想定のところも蛍光色にしていますけれども、目の不自由な方にも分かりやすくということで蛍光色にしています。あまり派手な色を付けると目の不自由な方は逆に見にくくなるそうなので、色使いにも気を遣いながらつくっているのが、松山市の防災マップです。役立つ事柄がいっぱい載っていますので、お帰りになられたら、防災マップを見ていただきたいと思います。また、ハザードマップも出しています。できる対策には、大きくハード面とソフト面があります。堤防をつくるとかハード整備をしていくのと同時に、それだけでは完璧には対策できませんから、ソフト面の対策も大事になります。皆さんの協力もいただきながら、災害対策を進めていけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

【男性】 要望を一つ、お礼を一つ言います。私もすごく洪水を気にしています。洪水を気にしたら、高いところをつくってくれという話になるんですけれども、この話は垣生だけのことじゃないと思います。余土にも五つくらい小学校とかあるんですけれども、

全部洪水ではペケです。当然、市の方はそういうことを思われていないでしょうけれども、垣生だけのことじゃなくて、余土も味生も生石もというように見ていただきたいと思います。それから、去年、大洲が大水害になりましたが、あのときは、水が増えたときに放水量を増やしたということらしいです。そのことで、非常に気にしていたんです。今年の話になりますが、お礼です。今年の7月くらいだったかと思いますけれど、台風が来るといえるとき、早くから石手川ダムの水を放流していただいたんです。ああいう心掛けが、心掛けて市の方にいうのはまずいかもしいですけど、あれは非常に助かりました。水が増えた後で放流してもらおうと、こちらは命懸けなんですね。あれは非常に良かったです。野村や大洲の災害がこちらで活かされていると思います。ありがとうございました。

【市長】 先ほど申し上げましたけれども、危機管理課の職員は、毎日、松山市内41地区の方々と直面していますので、垣生のことだけではなく、余土の坊っちゃんスタジアムのあたりは湿地帯でしたので、そういったところも日々、意識しながら、何ができるのかという意識で働いていますので、ご理解をいただけたらと思います。また、石手川ダムを管理しているのは、松山河川国道事務所ですので、国の管理になります。昨年7月の西日本豪雨の後、地域の皆さんに切迫感が伝わるように、大きく五つの対策を行っている聞いています。まず一つ目が、河川敷などに設置している警報所のスピーカーを住宅地に向けて増設しました。そして二つ目に、警報所の回転灯を危険レベルに応じて色分けしました。通常放流時が赤だったのですが、緊急放流時は紫になりました。そして三つ目に、テレビなどを通じてより分かりやすい情報発信を行うため、報道メディアとの意見交換会を実施し、関係機関への通知文の見直しをしました。四つ目に異常洪水の防災操作時には、サイレンの音を通常の3回から6回鳴らすことに変更しました。警報局スピーカーからのアナウンスをこれまでの「現在、石手川ダムでは洪水の調整を行っています、間もなく異常洪水時の操作に移行します。危険ですから川に近づかないでください」から「これまでに経験のないような洪水です。直ちに命を守る行動を取ってください」に変更されました。五つ目に、河川敷などに設置している電光表示装置の表示を「雨のための増水に注意！」から「ダム放流増加！非常事態！」に変更しました。このように国から変更したと松山市に届いているので、紹介させていただきました。

#### 広報タイム「住宅用火災警報器の設置について」

【男性】 現在、垣生小学校に「のめるん」という上水道があります。垣生中学校にもこれを建設してほしいなと思います。理由は、中学生は部活動もあるので、需要があるんじゃないかと思って、考えました。自分たちの代にもできたら嬉しいですが、後輩たちの代にも残せたら嬉しいので、ご検討をよろしくお願いします。

【市長】 私のある程度の記憶では、学校に災害時でも水を提供できる施設を拠点的に

つくっていて、その中の一つが「のめるん」になります。災害時でも水が簡単に飲めるような仕組みになっています。垣生小学校にはあるということなので、全体の中で配備していきますので、垣生中学校さんにはまだ難しいかもしれませんが、垣生小学校など防災訓練があるところに行ってください、そういうものがあるんだというのを見ていただいたらと思います。教えていただいて、ありがとうございました。

**【女性】** 垣生地区に伊予絣の資料館、展示館をつくっていただきたいと思います。子どもってすごい発想力、発見力がありますよね。鍵谷カナさんが最初に伊予絣を始めるきっかけってというのは、この大きな綺麗な夜空を見つめて、どうしてこの夜空は綺麗なんだろうって、それは星があるからよってということ、一生懸命働いているお母さんやお父さんに織ってあげたいということでした。そして、わらぶき屋根を見て、日に焼けたところは茶色くなっていて、火に焼けていないところは白いまま、それがすごく綺麗に感じて、伊予絣になりました。でも、鍵谷カナさんひとりの力ではなかったと思うんです。指導をしてくださる先生や、支援をしてくださる家族、たくさんの仲間たちがいたからこの伊予絣になったと思うんです。後押しをして応援してあげる、垣生地区はそういう地区だったと思います。

**【生涯学習政策課長】** 鍵谷カナさんにつきましては、市民の皆さんによく知っていただけるように、文化財めぐりやふるさと松山学で偉人として紹介しています。資料館のことについては、持ち帰らせていただいて、またご回答させていただけたらと思います。

**【市長】** デパートの方から聞きましたが、今、絣は小物でかなり注目を浴びていて、百貨店と組んで、小物使いでかなりいい評価を受けているということです。久万ノ台に伊予絣会館がありましたけども、ロープウェー街の方が人通りが多いということで、ロープウェー街に移られたようです。伊予絣は少し難しいところがあって、1回目と2回目のタウンミーティングでも出ましたけれども、伊予絣は道具や見本など、関連する道具が伊予絣会館などに多く残されているものの、年代の特定に至らないことから、文化財としての価値の証明が大変難しく、文化財保護審議会専門委員と議論を重ねているというところなんです。そういうところがちょっと難しいところとしてありますけども、日本三大絣ですし、明治期には伊予絣が一番だったので、これは大事にしていきたいと思います。ふるさと松山学にも載せたり、伊予農業高校の学生さんたちが取り組みをしてくださったり、本当にありがたいと思います。我々も伊予絣を大事にしていきたいと思いますので、地域での活動も大事にさせていただいたらと思います。また、機運が盛り上がっていくと、次の過程にも入っていけるかなと思いますので、行政と地域が一緒になって盛り上げていければと思います。

**【女性】** 今出ヶ浜に埋められていたという梅の木が現在、垣生中学校に移植されているのですが、枯れてきているものもあるので、残すために協力していただきたいです。

【生涯学習政策課長】 学校の樹木は、時期を見て専門家による剪定(せんてい)や消毒を行っているところで、梅の木につきましても、状況に応じた対応をしていきたいと思えます。

【市長】 どんな梅の木なのか、いきさつとかがあるのですか。

【女性】 テクノポリスの辺りに植えていたものを、土手の改修をしたためにそこには植えておけなくなって、学校が新しく分離するタイミングで、移植したのです。その梅の木の実が毎年よくなり、公民館で1キログラムが200円ぐらいで安く買えるので、さっと売ってしまいます。垣生は、昔、校区の木を選定したときに、梅の木を校区の木としたので、梅の実学級とか、いろんなものに梅の実が私たちの子どもの頃からあります。歴代の中学生がずっと育てて管理してきました。老木なので、ちゃんと管理をしていかないといけないと心配をしているのだと思います。

【市長】 よく分かりました。ありがとうございます。

【女性】 梅の木ですけど、菅原道真に由来すると思います。

【市長】 ありがとうございます。20時30分を過ぎましたので、梅の話ということで引き取らせていただいてよろしいですか。ご予約がある方もいらっしゃるかもしれませんが、締めさせていただきます。申し訳ありません。瀬戸内には菅原道真公の伝説が各所に残っているところがあります。北条の浅海は、梨が多かったですから、小学校の校章は梨なんです。そういうまちゆかりの植物がありますから、大事にするべきだと思いますし、先輩が学校に行って、「あ、まだあの梅あるんだ」となったら嬉しいですね。私からも教育委員会に話をして、この梅の木を大事にするようにということは必ず伝えたいと思います。今日は皆さんに知っていただきたいということで広報タイムを2カ所入れさせていただきましたけれども、活発なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。皆さんからご意見を頂いて、やはり川のそばですから、皆さんが心配に思っているというのがよく分かりました。人間泳ぐとなると足がつくと安心しますが、泳いでいて足がつかないととても不安になりますので、やはり皆さんに正しい知識を持っていただくというのは非常に大事なことだと思います。よく言われるように、正しく恐れてしっかりと備えるということが大事だと思いますので、改めて、今日皆さんのご意見を聞かせていただいて、情報発信の大事さというのを痛感しました。こちらにも気を付けながらやっていきたいと思えます。今日、1時間半があつという間に過ぎてしまいました。これからも皆さんと意見交換をしながらやっていきたいと思えますので、また、皆さんの声を聞かせていただけたらと思えます。皆さんからのご意見を頂いて、それを基にさまざま判断していくべきだと思いますので、これからも「現地、現場を大切に」「市民視線を大切に」していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

—了—